

インターバンクの声（2016年6月1日）

5月最終日の海外市場は、複数の金融機関から示されていた月末のドル売り需要が意識されたためか、序盤はユーロや円がドルに対して強含む展開となった。ニューヨーク市場の朝方には、ケース・シラー住宅価格指数や消費者信頼感指数などの指標発表が相次いだものの、指標自体の重要度がそれほど高くないことや結果もばらついたことで影響は少なかった。昨夜の市場が鋭く反応したのは、そうした一連の米経済指標の結果が出揃った頃に発表された英国の欧州連合（EU）離脱の国民投票について実施した最新の世論調査で離脱支持が優勢との結果に対してだった。ユーロの対ドルでの下落は50ポイント程度だったが、英ポンドは短時間で100ポイント近く下落、そこからニューヨーク市場の終盤に向けてさらに100ポイントも下落してしまった。つい最近までは残留支持派が優勢、少なくとも拮抗しているとの調査結果だったはずだが、昨夜の調査結果は電話、インターネット経由の調査がともに3ポイントほど離脱支持が残留支持を上回った。国民投票が実施される6月23日まではまだ日があるが、今後の情勢次第では、米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げ判断にまで影響があるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。